HIRANO TECSEED

2026年度第2四半期
連結決算説明資料

2026年11月13日

HIRANO TECSEED

目次

- 決算ハイライト
- 2026年度第2四半期実績
- 2026年度セグメント別第2四半期実績
- 2026年度見通し
- ペロブスカイト太陽電池製造装置の事業化に向けて
- 参考資料

会社概要

社名	株式会社ヒラノテクシード
代表者	取締役社長：安居　宗則
資本金	1,847,821千円（2026年9月末時点）
所在地	奈良県北葛城郡河合町大字川合101番地の1
グループ会社（出資比率100%）	ヒラノ技研工業株式会社、株式会社ヒラノK&E、HIRANO AMERICA,INC.
従業員数	317名　（連結： 418 名）（2026年9月末時点）
銘柄コード	6245（機械）

決算ハイライト

決算ハイライト

2026年度　2Q実績

	実績	前年同期比
売上高	14,731百万円	-3,425百万円 -18.9%
営業利益	2,430百万円	+1,221百万円 +101.0%
営業利益率	16.5%	+9.8pts

2026年度　業績予測

	予測	前期比
売上高	29,000百万円	-3,285百万円 -10.2%
営業利益	3,600百万円	+2,000百万円 +125.1%
営業利益率	12.4%	+7.5pts
ROE	6.6%	+3.2pts

トピックス

2026年度 2Q実績

- ✓ EV関連装置および付帯工事、電子材料・生活用品関連案件など生産計画は予想どおり進んだ
- ✓ 継続的に交渉を行っていた受注金額の見直しや、仕様変更に伴う追加処理費用・諸経費等の回収が実現し、一時的な大幅増益となった
- ✓ AI・DX関連の電子部品需要は継続している

2026年度 業績予測

- ✓ 受注金額の見直しや、仕様変更に伴う追加処理費用・諸経費等の回収が当初予測より前倒しで寄与した結果、中間期は上方修正
- ✓ AI・DX関連の設備需要は引き続き堅調に推移すると見込み、短納期の要望が強い　一方、その他の分野では、国内外の競合他社との価格競争が激化している
- ✓ 8月のペロブスカイト太陽電池向けテスト機の稼働開始に伴い、顧客からの問い合わせが増加
- ✓ 当社の技術面での優位性を訴求し、顧客の製品開発需要に積極的に応えていく

2026年度第2四半期実績

2026年度2Q決算概要

2026年度　2Q実績

（単位:百万円）	25年度2Q a	26年度2Q b	増減 b-a	増減率 (b-a)/a
受注高	7,397	15,814	+8,416	+113.8%
売上高	18,157	14,731	-3,425	-18.9%
営業利益	1,209	2,430	+1,221	+101.0%
営業利益率	6.7%	16.5%	+9.8pts	-
経常利益	1,275	2,518	+1,243	+97.5%
経常利益率	7.0%	17.1%	+10.1pts	-
純利益	901	1,763	+862	+95.7%
純利益率	5.0%	12.0%	+7.0pts	-

2026年度　2Q概況

受注高：
- ✓ AIサーバー向けに使用される、MLCCや電子基板、半導体等の需要を背景に関連する装置の需要が継続しているが短納期の要望が強い
- ✓ エネルギー分野で仕様変更に伴う追加受注が発生

売上高：
- ✓ 塗工機関連機器ではエネルギー関連、生活用品関連、ディスプレイ関連の受注消化によるもの
- ✓ 化工機関連機器では電子材料関連の受注消化によるもの

営業利益：
- ✓ 生産はほぼ計画通り推移したが、受注金額の見直しや仕様変更における追加処理費用、諸経費等の回収が寄与し大幅増益となった

経常利益：
- ✓ 営業利益に配当収入を加え2,518百万円となった

2026年度 2Qセグメント別業績

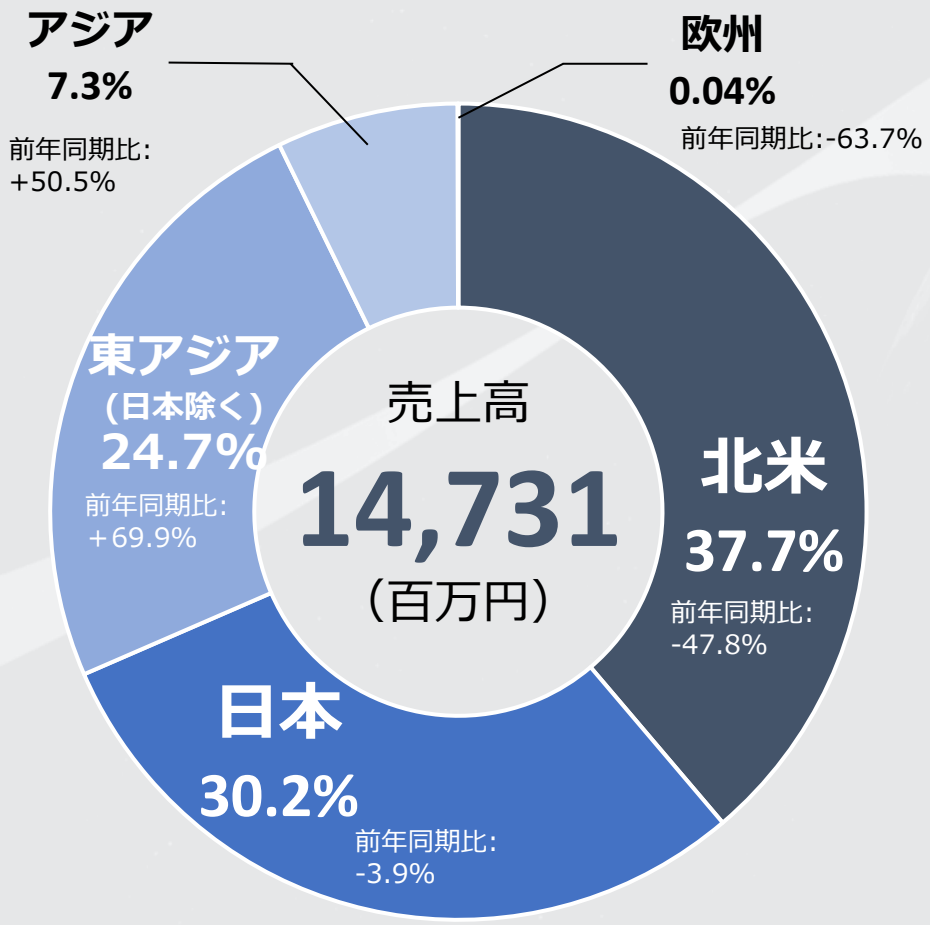
（単位：百万円）

		25年度2Q a	26年度2Q b	増減 b-a	増減率 (b-a)/a
塗工機関連機器	受注高	5,428	5,010	-417	-7.7%
	売上高	15,051	10,341	-4,709	-31.3%
	セグメント利益 (率)	1,670 (11.1%)	2,180 (21.1%)	+510 (+10.0pts)	+30.5%
化工機関連機器	受注高	1,389	9,846	+8,456	+608.6%
	売上高	2,309	3,847	+1,537	+66.6%
	セグメント利益 (率)	397 (17.2%)	961(25.0%)	+564 (+7.8pts)	+141.9%
その他・調整	受注高	579	957	+377	+65.2%
	売上高	796	543	-253	-31.8%
	セグメント利益 (率)	5 (0.7%)	122 (22.6%)	+117 (+21.9pts)	+2197.7%
連結合計	受注高	7,397	15,814	+8,416	+113.8%
	売上高	18,157	14,731	-3,425	-18.9%
	セグメント利益	2,072	3,264	+1,191	+57.5%
	全社費用	863	834	-29	-3.4%
	営業利益*1 (率)	1,209 (6.7%)	2,430 (16.5%)	+1,221(+9.8pts)	+101.0%

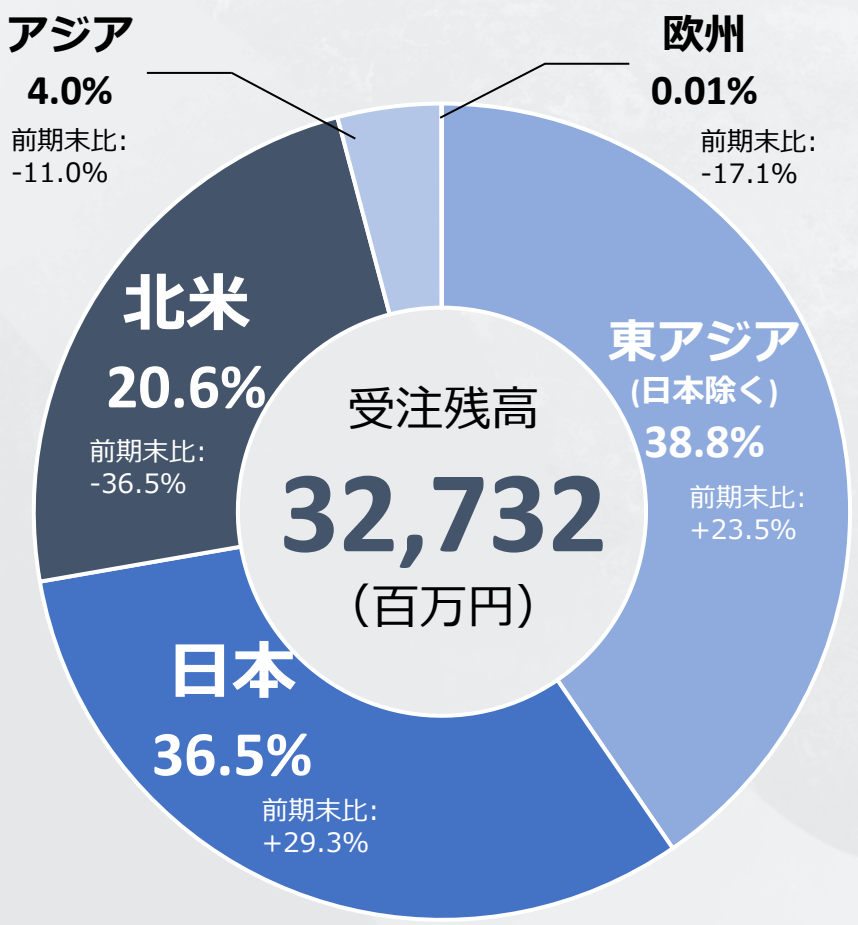
*1 ：報告セグメントに帰属しない一般管理費控除後

2026年度2Q 地域別 売上高比率 / 受注残高比率

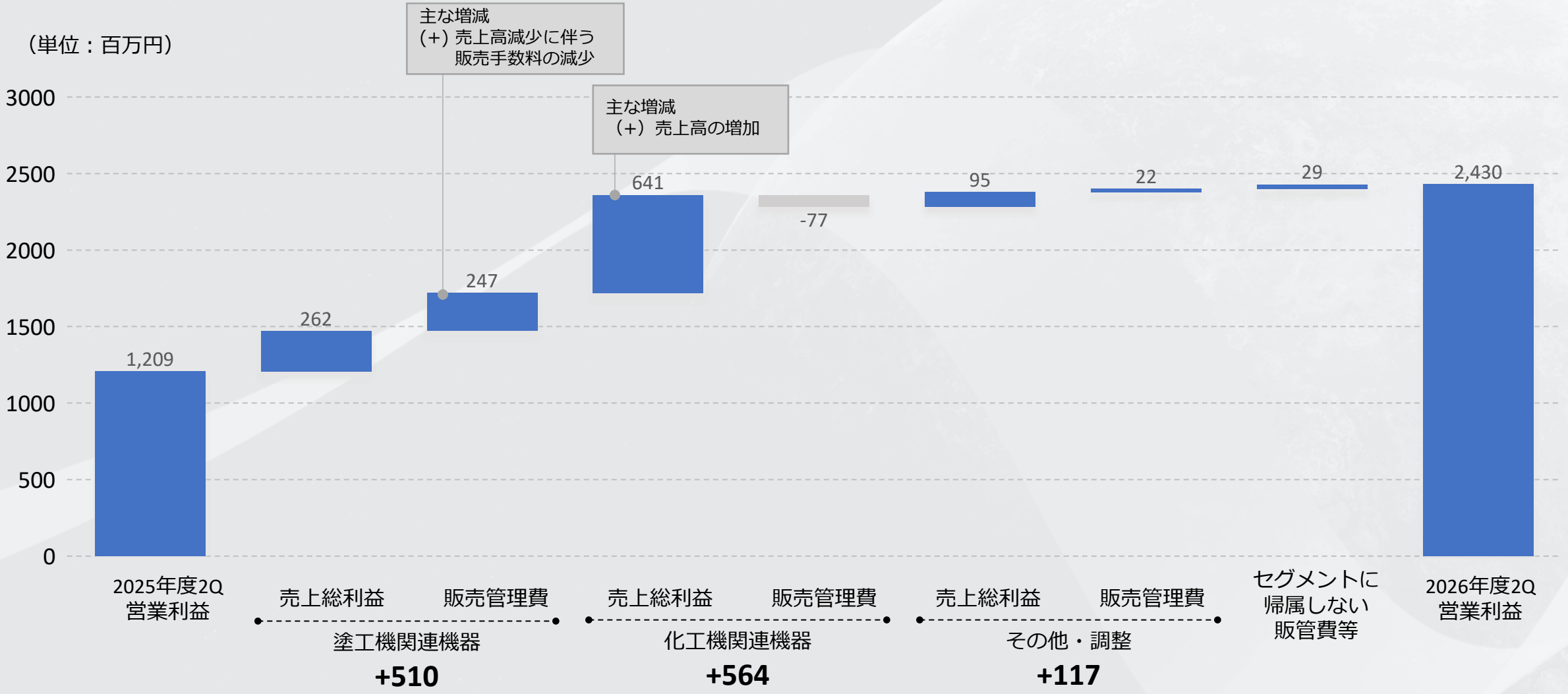
地域別売上高



地域別受注残高



2026年度2Q 営業利益の増減要因



2026年度 2Q貸借対照表

（単位：百万円）	25年度	26年度2Q	
	金額	金額	増減額
流動資産	42,895	39,641	-3,254
固定資産	14,889	16,132	+1,242
有形固定資産	7,959	7,839	-119
無形固定資産	372	291	-80
投資その他の資産	6,558	8,000	+1,442
総資産	57,785	55,773	-2,011
流動負債	17,019	12,130	-4,889
固定負債	1,365	1,884	+518
純資産	39,400	41,759	+2,359
自己資本比率	68.2%	74.9%	+6.7pts

資産（2025年度末比）

流動資産　3,254百万円減少

- ✓ 現金及び預金が424百万円、有価証券が1,498百万円、前渡金が235百万円それぞれ増加
- ✓ 売上債権及び契約資産が5,145百万円減少

固定資産　1,242百万円増加

- ✓ 投資その他の資産が1,442百万円増加
- ✓ 有形固定資産が119百万円減少
- ✓ 無形固定資産が80百万円減少

負債（同）

流動負債　4,889百万円減少

- ✓ 短期借入金が3,450百万円、前受金が895百万円、その他に含まれる未払金が236百万円それぞれ減少

固定負債　518百万円増加

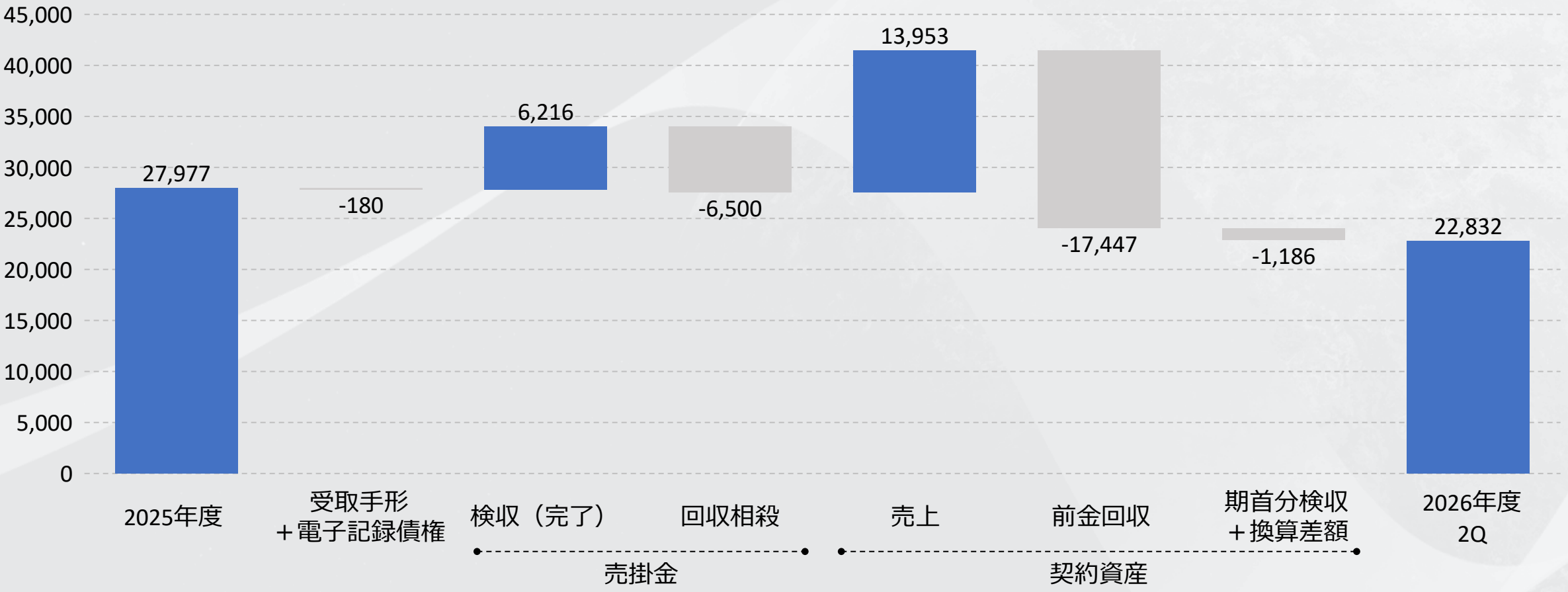
- ✓ その他に含まれる繰延税金負債が817百万円増加、長期借入金が210百万円減少

純資産（同）

純資産　2,359百万円増加

受取手形、売掛金及び契約資産＋電子記録債権の増減

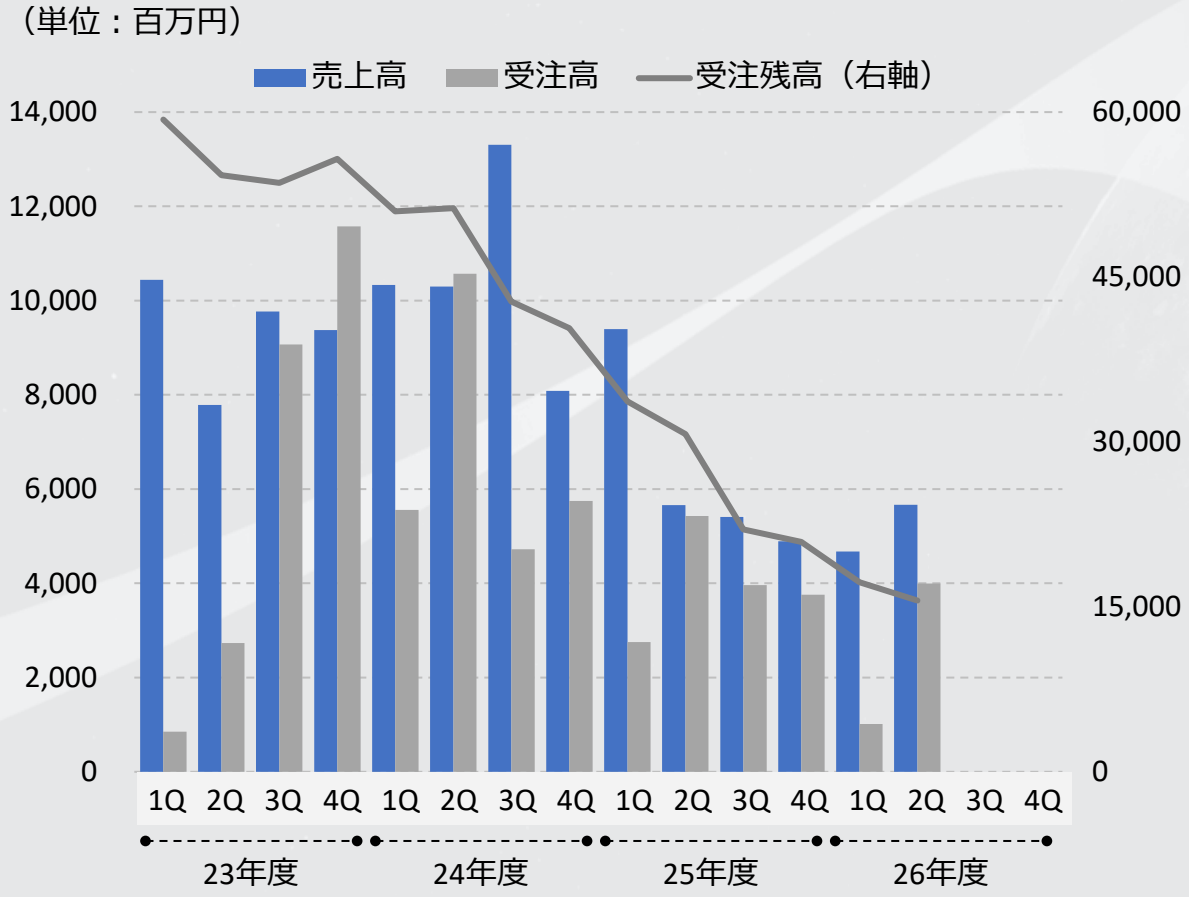
（単位：百万円）



2026年度セグメント別
第2四半期実績

塗工機関連機器部門の受注残高・売上高・受注高の推移

塗工機関連機器部門の受注残高・売上高・受注高推移



塗工機関連機器部門のハイライト

市場環境

- ✓ エネルギー分野においては、EV市場の停滞は継続している
- ✓ ペロブスカイト太陽電池の製造装置については、量産化、歩留まり向上を意識した設備投資が始まりつつある
- ✓ 光学フィルム等の引き合いはあり積極的な受注を進めていく

受注高

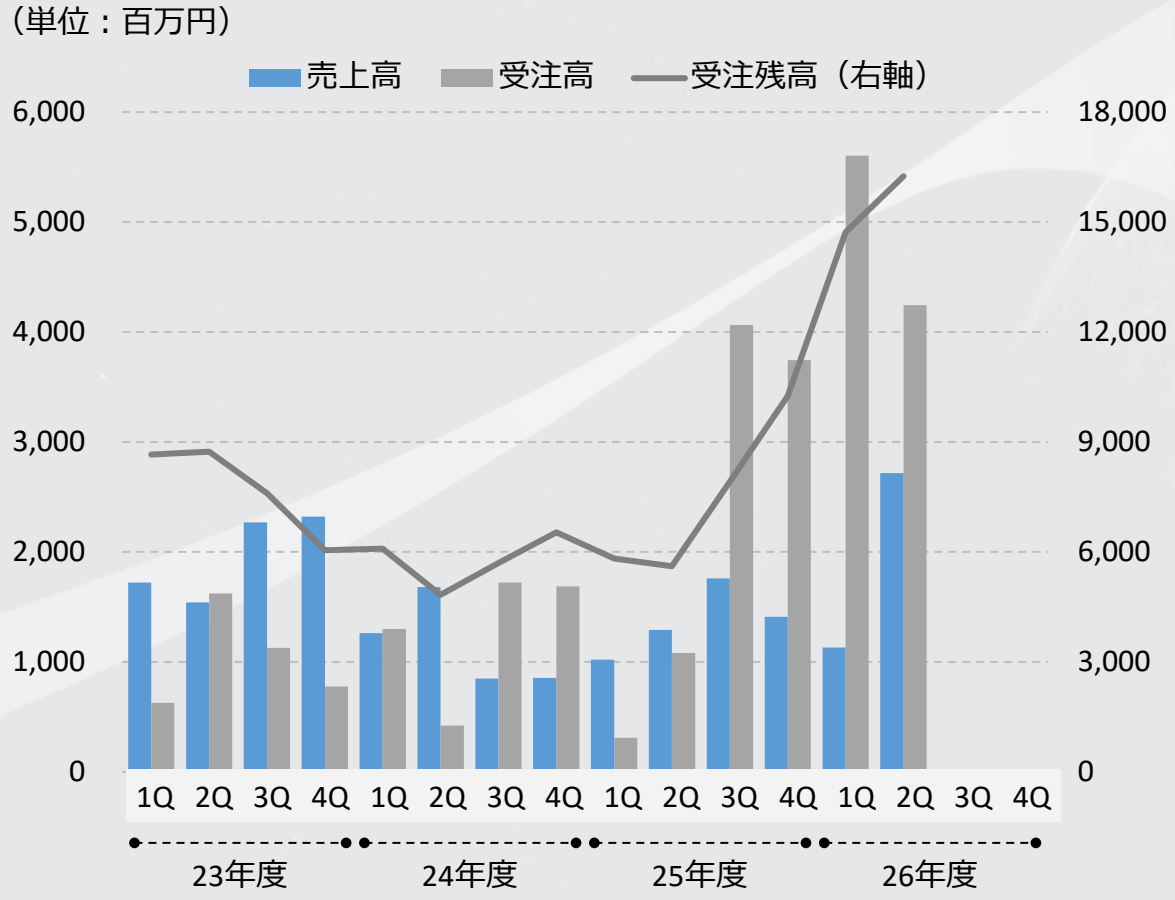
- ✓ エネルギー関連分野において受注獲得
- ✓ 継続的に交渉を行っていた受注金額の見直しや仕様変更における追加処理費用、諸経費等の回収が実現

売上高

- ✓ エネルギー関連分野の装置および付帯工事、生活用品関連、光学フィルム、プリント基板材料向け等の受注案件を消化

化工機関連機器部門の受注残高・売上高・受注高の推移

化工機関連機器部門の受注残高・売上高・受注高推移



化工機関連機器部門のハイライト

市場環境

- ✓ AIサーバー等に使用される電子材料の需要は継続しており、引き続き関連するMLCCやガラスクロス等の製造装置の分野において受注獲得を目指していく
- ✓ 電子材料の急激な需要増加により海外においては歩留まりより短納期で装置納入を要望される顧客も多い

受注高

- ✓ 電子材料関連について国内、東アジア地域を中心に新規受注獲得を目指した結果、複数案件の獲得、真空関連機器を受注

売上高

- ✓ 電子材料関連や真空関連機器の生産が貢献し生産量は上向き

2026年度見通し

2026年度業績見通し

	25年度実績	26年度計画	前期比	
（単位：百万円）	a	B	増減 b-a	増減率 (b-a)/a
売上高	32,285	29,000	-3,285	-10.2%
営業利益	1,599	3,600	+2,000	125.1%
営業利益率	5.0%	12.4%	+7.5pts	-
経常利益	1,706	3,700	+1,993	116.8%
経常利益率	5.3%	12.8%	+7.5pts	-
当期純利益	1,313	2,600	+1,286	98.0%
当期純利益率	4.1%	9.0%	+4.9pts	-
ROE	3.4%	6.6%	+3.2pts	
1株当たり年間配当金	84円	84円	-	
中間	42円	42円	-	
期末	42円	42円	-	

ペロブスカイト太陽電池（PSC：Perovskite Solar Cell）製造装置の事業化に向けて

次世代型太陽電池市場は「事業化・量産投資」の段階へ

HIRANO TECSEED

2026年7月時点｜研究開発から社会実装へ転換

ペロブスカイト太陽電池の装置需要を事業成長の好機として捉える

2025年

01

事業化開始

一部事業者が
市場投入を開始

2027年

02

量産体制へのニーズ

量産開始に向け
設備投資が進行

2030年までの早期

03

GW級へ

国内の生産体制を
段階的に拡大

量産技術への期待

政府はフィルム型は2030年14円/kWh、
タンデム型は12円/kWh以下を目標に

実装環境の整備

政府が施工ガイドライン初版を公表し、
国際標準化・海外実証も進む

装置市場への期待

実証設備から100MW量産、
GW級ラインへ需要が段階的に進む

市場環境は量産設備への投資が始まり、装置メーカーの提案機会が具体化へ

出所：経済産業省「次世代型太陽電池に関わる動向について」（2026年7月17日）

国内20GW・海外500GW超を見据え市場は段階的に拡大

長期の導入見込み

国内 **20** GW

海外 500GW～

国内市場から立ち上げ、
導入が見込まれる海外市場へ順次展開

市場規模感見通し

01 短期 2025年～

～数百MW／年｜国内市場を立ち上げへの対応

02 中期 2030年～

約1GW／年～数GW／年｜国内普及と導入期待国への対応

03 長期 2040年～

数GW／年～｜国内20GW・海外500GW～へ展開

装置需要は実証 → 100MW量産 → GW級ラインへ段階的に拡大

※導入量・生産能力は政策上の目標・展開イメージ　出所：経済産業省「次世代型太陽電池に関わる動向について」（2026年7月17日）

メカニズム解明によりR2R量産プロセスを確立

当社の特徴｜装置起点ではなく、材料・プロセス設計まで遡る「メカニズム起点」の開発へ

01

研究室では実現

スピンコート法では作製可能
一方、量産方法は未確立

02

Roll to Roll量産の壁

高生産性のR2R工程へ置き換える際の技術課題が未解明

結晶化・乾燥・膜品質の因果も未解明

多くが試行錯誤による生産条件模索に留まる

03

当社はメカニズムから解く

2024年4月～ 金沢大学と共同研究

従来は顧客対応分野であった、生産プロセスと生産に適した材料改良の両面へ研究を拡張

当社の画期性

**結晶化・乾燥・膜品質の因果関係を「レシピ」として蓄積し、
短期間のうちにR2R量産の技術メカニズムを確立**

顧客のプロセス設計・材料設計まで遡って参入し、Roll to Rollに適した条件提案を可能に

R2R＝Roll to Roll

ヒラノで標準確立を起点に顧客価値が増える関係性を継続

当社の特徴｜「作れること」の証明から、顧客別最適化・量産機改良まで伴走

2025年1月 01

PSC塗工機仕様発表

標準機・標準材料の設計を具体化

2026年1月 02

実機を展示会で発表

製造装置の具体化

2026年7月 03

小型検証機を展開

塗布・乾燥環境を提供

2026年8月 04

PSC検証設備の運用開始

社内テスト環境に検証データの蓄積を開始

生産方法のデファクトスタンダード化

生産プロセスのコンサルティングから、
→ パイロット機販売 → 量産機販売・改良

標準的な生産方法を当社装置で実現

プロセス／材料設計まで遡る量産ノウハウをもとにコンサルティングを提供、顧客の生産方法確立へ寄与

他社が追随しにくい継続価値を提供

- 設備稼働データ → モデル更新 → 条件最適化を再提案
- 大学・材料・セルメーカーとの共創による知見
- 材料変更にも追随できる検証基盤
- 当社主導でサプライチェーンを構築

導入後も顧客価値が増える関係を築き、装置・ノウハウ・共創基盤を模倣困難な強みに

PSC＝ペロブスカイト太陽電池

ヒラノで実現するデジタルツイン技術とは

HIRANO TECSEED

HIRANO TECSEED DIGITAL TWIN｜実際の運転状況を仮想空間に再現、実機での総当たりから、仮想空間での事前検証へ

従来｜デジタルツインなし

01	**条件を仮置き**	再現条件を実機で探索する必要
02	**実機で1件ずつ検証**	条件ごとに生産し、結果を確認
03	**長時間解析・再試験**	解析・条件修正を重ね、再現条件を見出す

→ 実機前に探索範囲を絞る

デジタルツイン活用

01	**仮想塗工装置を構築**	塗布・搬送・乾燥をモデル化
02	**デジタル空間で試行**	生産前に条件を絞り、最適域を予測
03	**有望条件だけ実機検証**	実機テストを実施回数を絞り、再現性を確認

従来のボトルネック　**再現条件を見出すまで、非常に多くの手間と、1件ずつの長時間解析・検証が必要**

生産前の仮想試行で最適条件の候補を見出し、実機の試行錯誤を大幅に削減

※ 効果と条件範囲は、材料特性・設備仕様・実機検証結果により異なる

世界初の結晶成長モデル構築から、デジタルツインを横展開

HIRANO TECSEED

HIRANO TECSEED DIGITAL TWIN｜ペロブスカイト塗工機から、他の装置・生産プロセスへ

産学連携｜米国ミネソタ大学（IPRIME）

世界に先駆け　ペロブスカイト結晶成長モデルを構築

最新の研究を基に、デジタルツインの心臓部となる結晶成長モデルを開発、結晶成長を予測し、
実機試作前に有望条件を絞り込む

今後の展開｜モデル化とデジタルツインを技術プラットフォームとして拡張

01 PSC塗工機
結晶成長予測と
実機検証の循環を確立

→

02 他の装置へ
他の市場分野へモデル作成ノウ
ハウを横展開

→

03 多様な製品生産プロセスへ応用
材料・設備・工程をつなぎ
条件設計を高度化

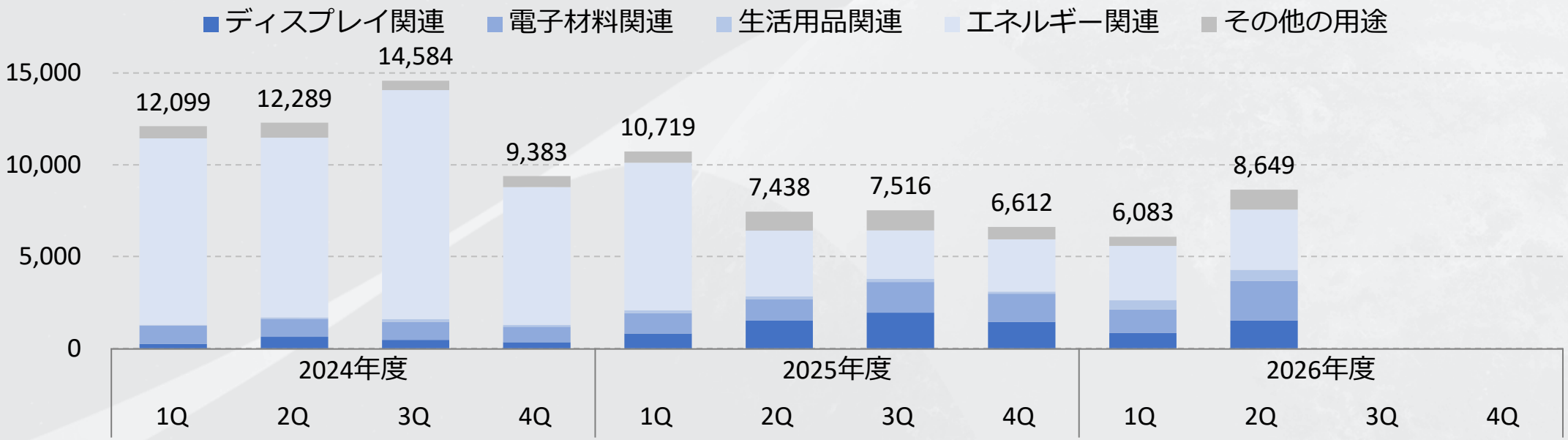
あらゆる製品の生産プロセスの最適化へ

IPRIME＝米国ミネソタ大学との産学連携

参考資料

用途別セグメント①　売上高（四半期ごと）

（単位：百万円）

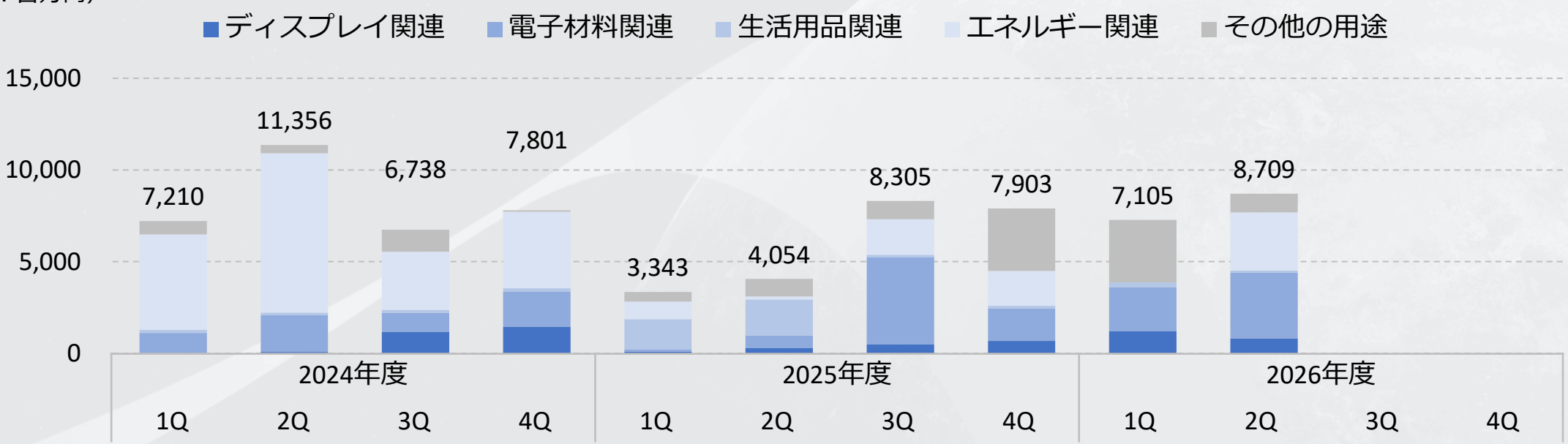


売上高比率

	2024年度 1Q	2Q	3Q	4Q	2025年度 1Q	2Q	3Q	4Q	2026年度 1Q	2Q	3Q	4Q
その他の用途	5.4%	6.6%	3.6%	6.4%	5.7%	13.8%	14.6%	10.2%	8.2%	12.6%		
エネルギー関連	83.9%	79.7%	85.6%	80.1%	75.0%	48.0%	35.2%	43.0%	48.7%	38.0%		
生活用品関連	0.3%	0.7%	1.0%	1.0%	1.5%	2.2%	2.1%	1.8%	8.1%	7.1%		
電子材料関連	8.2%	8.0%	6.7%	8.9%	10.3%	15.8%	22.3%	23.2%	21.4%	24.7%		
ディスプレイ関連	2.1%	5.1%	3.1%	3.6%	7.6%	20.3%	25.9%	21.8%	13.6%	17.6%		

用途別セグメント②　受注高（四半期ごと）

（単位：百万円）



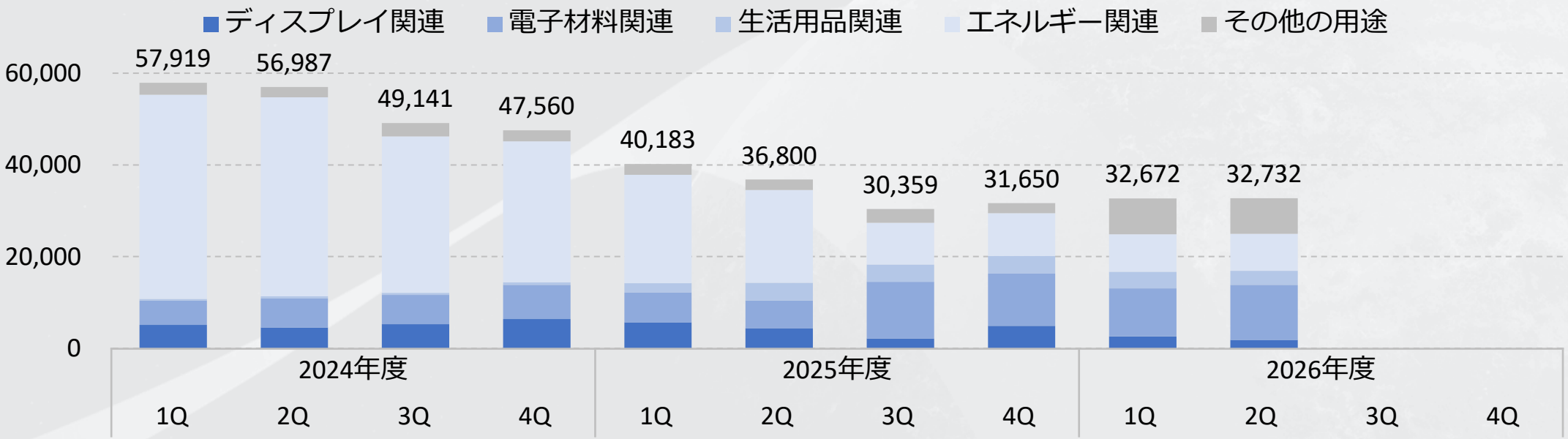
受注高比率

	2024年度 1Q	2Q	3Q	4Q	2025年度 1Q	2Q	3Q	4Q	2026年度 1Q	2Q	3Q	4Q
その他の用途	10.0%	3.9%	17.8%	1.1%	15.8%	23.4%	11.9%	43.1%	48.0%	11.8%		
エネルギー関連	72.3%	76.5%	47.0%	53.5%	28.3%	4.0%	23.5%	24.1%	-3.3% ※1	36.2%		
生活用品関連	2.4%	1.2%	2.4%	2.2%	49.5%	48.8%	1.4%	1.7%	3.6%	1.3%		
電子材料関連	15.2%	17.7%	15.5%	24.7%	3.6%	16.9%	57.3%	22.5%	34.8%	41.4%		
ディスプレイ関連	0.1%	0.7%	17.3%	18.5%	2.8%	6.9%	6.0%	8.6%	16.9%	9.2%		

※1　受注金額の見直し等

用途別セグメント③　受注残高（四半期ごと）

（単位：百万円）



受注残高比率

	2024年度 1Q	2Q	3Q	4Q	2025年度 1Q	2Q	3Q	4Q	2026年度 1Q	2Q	3Q	4Q
その他の用途	4.6%	4.0%	6.0%	5.1%	5.9%	6.2%	7.1%	15.5%	23.9%	23.7%		
エネルギー関連	76.8%	76.2%	69.4%	64.7%	58.9%	55.0%	40.6%	36.0%	25.1%	24.6%		
生活用品関連	0.6%	0.8%	0.9%	1.1%	5.0%	10.4%	12.5%	12.1%	11.0%	9.4%		
電子材料関連	9.2%	11.1%	13.0%	15.7%	16.2%	16.4%	30.0%	29.5%	32.2%	36.6%		
ディスプレイ関連	8.8%	8.0%	10.7%	13.4%	14.0%	12.0%	9.8%	7.0%	7.9%	5.7%		

免責事項

本資料は情報提供のみを目的として作成するものであり、当社株式の購入を含め、特定の商品の募集・勧誘・営業等を目的としたものではありません。

本資料には財務状況、経営結果、事業に関する一定の将来予測並びに当社の計画及び目的に関する記述が含まれます。

このような将来に関する記述には、既知または未知のリスク、不確実性、その他実際の結果または当社の業績が明示的または黙示的に記述された将来予測と大きく異なるものとなる要因が内在することにご留意ください。これらの将来予測は、当社の現在と将来の経営戦略及び将来において当社の事業を取り巻く政治的、経済的環境に関するさまざまな前提に基づいて行われています。

本資料で提供している情報に関しては万全を期しておりますが、その情報の正確性、確実性及び公正性を保証するものではなく、当社は掲載された情報またはデータの誤りまたは不正確に関しまして、一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。

予告なしに内容が変更または廃止される場合があります。

2026年11月13日

この資料に関するお問い合わせは
株式会社ヒラノテクシード　コーポレート部門（TEL0745-57-0681）まで